

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2401 号

Validation study of the Forgotten Joint Score-12 as a universal patient-reported outcome measure

(国際的な患者立脚型評価としての Forgotten Joint Score - 12 の有用性の検討)

松本 幹生 (まつもと みきお)

博士 (医学)

論文内容の要旨

人工股関節全置換術 (以下 THA) の術後評価には医療者による評価と患者立脚型評価が存在する。本邦では日本整形外科学会股関節疾患評価質問票 (以下 JHEQ)、Western Ontario and McMaster Universities Osteoarthritis Index (以下 WOMAC) が主に用いられている。海外では Behrend らが人工関節術後評価として、bad と good に分ける他に、very good、excellent に相当する状態がある事を提唱し、究極のゴールは人工関節を意識しない事であるとの考えから Forgotten joint score-12 (以下 FJS-12) を開発した。そこで我々は本邦での FJS-12 の術後評価としての有用性を検討した。

まず最初に back translate 法に準じて日本語版 FJS-12 を作成した。次に横断研究を行った。片側 THA 術後患者 108 人に対象として JHEQ、WOMAC、FJS-12 を調査した。男性 18 人、女性 85 人、平均年齢は 65.7 歳 (25-88 歳)、手術からの期間は平均 29.5 カ月 (1~180 カ月)、アプローチは後方 65 例、前方 43 例であった。点数はそれぞれ 0 点を最低点、100 点を最高点に換算し比較した。JHEQ は平均 63.8 ± 19.7 点、WOMAC は平均 82.1 ± 16.0 点、FJS-12 は平均 53.6 ± 25.3 点であり、FJS-12 は JHEQ、WOMAC と比較して優位に点数が低かった。FJS-12 の信頼性は、内的一貫性を示す Cronbach の α 係数で算出し、0.97 であった。FJS-12 の有用性は、Pearson の積率相関係数を用いた。FJS-12 と JHEQ、WOMAC の相関係数はそれぞれ $r=0.686$ 、 $r=0.522$ であり、JHEQ の各項目 (疼痛、動作、メンタル) においてもそれぞれ $r=0.550$ 、 0.643 、 0.530 、WOMAC の各項目 (疼痛、こわばり、機能) で $r=0.289$ 、 0.401 、 0.539 と、疼痛を除いて相関を認めた。また、FJS-12、JHEQ は、WOMAC と比較して、低い天井効果であった。これらの結果から、FJS-12 は平均点数が低く分布が大きい傾向にあり、JHEQ、WOMAC と比較して差が出やすい傾向にあった。さらに質問数が 12 個と少ないので、外来で比較的簡便に使用できるツールであり、人種や生活様式に関わらず有用な評価法であると考えられた。JHEQ は日本人の生活様式に合わせた評価であり、WOMAC は国際的に使用されている患者評価法である。FJS-12 はその両方に相関を認め、少なくとも両者と比べて同等の信頼がおける評価法であると考えられた。